

日中対照言語学会
第39回大会(2018年度春季大会)のご案内

記

日時: 2018年5月20日(日) 午前9時20分より午後5時20分(予定時間)

会場: 東洋大学(東京都文京区白山5-28-20) 8号館7階125記念ホール

交通: 都営地下鉄三田線白山駅A3出口より徒歩5分

東京メトロ南北線本駒込駅1番出口より徒歩5分

参加費: 1000円(会員、非会員共通)

プログラム

- 受付(9:00-) 総合司会 豊嶋 裕子(東海大学)
- 大会開催校挨拶 小川 芳樹(東洋大学経済学部長) 9:20-9:30
- 開会の辞 彭 飛(京都外国語大学) 9:30-9:35
- 研究発表1. 現代中国語における“过”について
—“V+来/去”と“V+过+来/去”の構造から—
蘇秋韵(大東文化大学大学院) 9:35-10:05
- 研究発表2. 中国語の結果補語“住”の用法について—その使用に見られる「働きかけ」
の様相について考える—
丸尾誠(名古屋大学) 10:05-10:35
以上 司会 平山 邦彦(拓殖大学)
- 休憩(10分 10:35-10:45)
- 研究発表3. “把”構文における主体の変化について
小路口ゆみ(大東文化大学) 10:45-11:15
- 研究発表4. 副詞+“是”について
白石裕一(中央大学非常勤) 11:15-11:45
以上司会 竹島 毅(大東文化大学)
- 昼休み(60分 駅の周辺に食堂街あり) 11:45-12:45
- 講演1 ビジネス日本語専門用語の翻訳
李愛文(中国・对外経済貿易大学) 12:45-13:45
- 講演2 日本語のアスペクトの諸問題
須田義治(大東文化大学) 13:45-14:45
以上司会 続 三義(東洋大学)
- 休憩(15分 14:45-15:00)
- 研究発表5. ユーモア研究と翻訳研究の接点: 日本語ユーモア翻訳の可能性について
王夢蕾(筑波大学大学院) 15:00-15:30
- 研究発表6. “別/不要……了”構文とその多様な日本語訳
王学群(東洋大学) 15:30-16:00
以上司会 白銀 志栄(神田外国語大学)
- 休憩(15分 16:00-16:15)
- 研究発表7. 日中法律専門用語の「同形異義」問題に関する事例分析
吉田 慶子(大東文化大学外国語学部) 16:15-16:45
- 研究発表8. “NP的VP”フレーズをどう日本語に訳せばよいか
佐藤富士雄(中央大学名誉教授) 16:45-17:15
以上司会 王亜 新(東洋大学)
- 閉会の辞 加藤 晴子(東京外国語大学) 17:15-17:20
- 会員総会 17:20-18:00
- ※当日、入会申し込み、および年会費の納入も受け付けます。(年会費: 社会人4,000円、
院生2,000円)

第 39 回大会 (2018 年度春季大会)
講演及び研究発表 テーマ・発表者と発表要旨

講演 1

テーマ：ビジネス日本語専門用語の翻訳

講演者：李愛文 (中国・对外経済貿易大学)

講演要旨：

ビジネス日本語翻訳は企業のビジネス活動に欠かせない専門的なスキルとして、高い専門性と実用性を有する。これに携わる者にはしっかりとした言語能力と豊富な専門知識が必要であると同時に、企業それぞれの文化的背景や経営モデルを理解する必要がある。

本論文で取り上げようとするビジネス日本語専門用語の翻訳というテーマはまさに上述二つの特徴を併せ持つ性質のものであると言える。というのは、ビジネスに関する専門用語を理解するには、一般的な通訳、翻訳に必要な語学力やスキルが必要とするだけでなく、ビジネスに必要な各種の専門知識も必要とするからである。

具体的に言うと、まずビジネス日本語には専門用語や外来語が多用されること。例えば、アフターサービス(产品保修)、カタログ(商品目录)などである。次に、外来語のほか、英語の略語がたびたび使われること。例えば、:CIF(成本加費用)などである。最後に、中国語と日本語に共通する同形語もビジネス日本語翻訳の難関の一つであるので、注意が必要である。

本論文の構成は以下の通りである。

1、ビジネスとは

ビジネスには、マクロ的な定義とミクロ的な定義がある。マクロ的には、物やサービスに関するすべての取引を指す場合と、ミクロ的には、具体的な取引や貿易を指す場合がある。ビジネス活動という場合は、企業が経営目的を実現するために行われる各種の資源(物、人、金、情報)に関する取引のことを指す。

2、ビジネス日本語の専門用語

(1) 英語から来る専門用語

- ①中国語と日本語ともに英語の略語の場合
- ②中国語と日本語ともに英語の音訳の場合
- ③中国語と日本語ともに英語の意識の場合
- ④中国語が意識で日本語が音訳の場合

(2) 中国語と日本語に共通する同形語の場合

講演 2

テーマ：日本語のアスペクトの諸問題

講演者：須田義治 (大東文化大学)

講演要旨：

現代日本語のアスペクト研究をめぐるいくつかの問題について概観します。

具体的には、戦後のアスペクト研究の出発点となっている金田一春彦の「国語動詞の一分類」(1950)から、奥田靖雄の「アスペクトの研究をめぐる」(1977)までの研究史をたどりながら、おもに後者の奥田論文の批判的な検討をすることによって、形態論的なカテゴリー、形態論的な形、語彙・文法的な系列、アスペクト的な意味(一般的な意味、中核的な意味、個別的な意味)、対立、有標・無標など、アスペクト研究の重要な概念をより明確にしていきたいと思えます。

研究発表

1.

テーマ：現代中国語における“过”について

— “V+来/去” と “V+过+来/去” の構造から —

発表者：蘇秋韵(大東文化大学大学院生 Elsasa SU <suqiuyun1004@gmail.com>)

要旨：

動詞“走”を例にとると、空間移動を表す“走来”と“走过来”が両方言える。つまり、“V+来/去”と“V+过+来/去”の構造において“V”が空間移動を表す動詞の場合、一般的には両方使えるが、意味は必ずしも同じではない。例えば、

(1) 初步设计刚刚完成，又有喜讯传来。(CCL)

(2) 皇帝的声音从屏风后面传过来。病人好像要起床似的发出了一些声音。(CCL)

本発表では、移動動詞と方向補語“过”の意味関係に注目して、“V+来/去”と“V+过+来/去”との差異について考察する。例(1)は、発話者が注目するのは“喜讯”の出現である。つまり、“V+来/去”の構造は主体の移動を陳述し、主体の出現(着点)に注目している。それに対して、例(2)を見ると、発話者は“声音传过来”の結果だけでなく、その経路“从屏风后面”にも注目している。すなわち、“V+过+来/去”の構造は、主体の移動の経路を参照点として、着点までの運動を伝えているのである。

2.

テーマ：中国語の結果補語“住”の用法について— その使用に見られる「働きかけ」の様相について考える —

発表者：丸尾誠(名古屋大学) (Maruo Makoto <maruo@lang.nagoya-u.ac.jp>)

要旨：

中国語の結果補語“住”は一般に「動作が停止すること」または「動作の結果が安定あるいは固定すること」を表すとされる。前者の代表例としては“站住、叫住”などが、後者の代表例としては“抓住、记住”などが挙げられる。これらは主体が対象に「働きかける」意図的な行為であるものの、例えば「茫然とする」という非意図的な状態を表す“呆住、愣住”についても、前者の意味との関連で、“住”は「体の動きの停止」を表すと解釈される。このように、補語“住”の表す意味については具体的な事象から説明されることが多いものの、本発表では当該の事態をもたらした背景に目を向け、“住”が心理活動を表す“愣、愁”のような他動性を有さない動詞や“呆”のような形容詞と共起する場合も含めた“V 住”フレーズの使用に見られる働きかけの様相について考察する。“V 住”が用いられた文について、“叫住、抓住”などの動作主体が意図を持った有生物である場合とは異なり、事態のような無生物が働きかけの主体となっている場合には、往々にして原因・理由として解釈されることになる。

3.

テーマ：“把”構文における主体の変化について

発表者：小路口ゆみ(大東文化大学 yumi <kennyhe490@yahoo.co.jp>)

要旨：

中国語における“把”構文は、一般的に客体の位置の移動、状態の変化及び認識の変化を表している(例 1)。それだけではなく、主体の変化も表すことができる。本発表では、“把”構文が主体の状態の変化及び認識の変化を表すこと(例 2)を分析・考察する。そして、これを証明することを試みる。

(1) 要是钢条软了一根，你拿回来，把它摔在我脸上！(《骆驼祥子》1)

(2) 他不觉得这是太多，还是太少；他把思想集中到这三匹身上，虽然还没想妥一定怎么办，可是他渺茫的想到，他的将来全仗着这三个牲口。(《骆驼祥子》3)

例(1)の主体である“你”が動作“摔”によって、客体である“它”を“我脸上”に移動させるのを表現しているが、例(2)の主体である“他”が自分の“思想”を他のところから“这三匹身上”に集中したという表現である。例(2)は決して客体の変化ではなく、

むしろ主体の変化だといえるだろう。これについて、《骆驼祥子》及び《家》の中の実例を調査・分析する。これによって、さらに“把”構文の意味に対する理解をより一層深めることができるのを期待する。

4.

テーマ：『副詞+“是”について』

発表者：白石裕一（中央大学非常勤）

要旨：

副詞と“是”の共起関係については、古川裕（1989）が597個の副詞を全面的に調査している。しかし、張道生（2003）は、その調査結果に対し、言語事実に基本的に符合してはいるものの、いくつかの漏れや不正確なところがあると指摘している。本発表では、かつて発表者が行った北京大学のコーパス（CCL）に基づく調査結果に、北京語言大学のコーパス（BCC）に基づく調査結果を加え、再度この問題について考えてみたい。

5.

テーマ：ユーモア研究と翻訳研究の接点：日本語ユーモア翻訳の可能性について

発表者：王夢蕾（筑波大学大学院 博士後期課程 王夢蕾 <muuurai.w@foxmail.com>）

要旨：

ユーモア研究はアリストテレスを始め、古代ギリシャ時代から数多くの研究者によって行われてきた、主に優越理論、解放理論と不適合理論の3つの主張に分けられる（Raskin1985、Larkin-Galiñanes2017など）。1980年代に入ってから、言語学におけるユーモア研究が盛んになった。特にRaskinとAttardoによって立ち上げられた理論、ユーモアの意味的スクリプト理論（Semantic Script Theory of Humor、SSTH）及び言語的ユーモアの一般理論（The General Theory of Verbal Humor、GTVH）はユーモアの言語学においての定義を定め、ユーモアテキストを分析する意味論的可能性を明らかにした。

一方、翻訳研究においては、ユーモアの翻訳についての研究も多々行われてきたが、ユーモアの定義が曖昧であり、言語間の相違などによって、目標テキストの統語・語彙的特徴に注目している伝統的な翻訳研究が多いと言えよう。

本研究においては、翻訳研究とユーモア研究の接点に着目し、両分野における日本語・中国語・英語での今までの成果を整理し、日本語ユーモアを中国語に翻訳する可能性及びそのプロセスを研究する方法を検討したい。

6.

テーマ：“別/不要……了”構文とその多様な日本語訳

発表者：王学群（東洋大学）

要旨：

データベースから例文を集めてみると、“別/不要……(了)”構文が多様に訳されているのが判明した。この多様な日本語訳から、“別/不要……(了)”構文の陳述的な意味における微妙な変化が読み取れる。

本稿では、なぜ多様な日本語訳が可能かについて考察する。多様な日本語訳が可能なのは、決して日本語に同じ意味の表現形式が沢山あるからではなく、“別/不要……(了)”構文が多岐にわたって意味的に使われているからである。このような例文と例文の間の微妙な意味的な違いについて翻訳者は多様な日本語表現で表しているのである。それゆえ、その多様な日本語訳に対する検討は、“別/不要……(了)”構文の陳述的な強弱性を解明するのに大変有益だと思われる。

7.

テーマ：日中法律専門用語の「同形異義」問題に関する事例分析

発表者：吉田 慶子（大東文化大学外国語学部）

要旨：

日中同形語問題は、日本語と中国語の対照研究において避けることのできない大きな課題の一つである。これまで多く日中言語学者の研究蓄積は枚挙にいとまないが、法律専門用語に関する研究はまだ少ない。

本発表は、日中法律専門用語における同形語問題に着眼し、法律専門用語の「同形異義」異なる 3 タイプを事例に取り上げ、意味概念の分析調査を行う。この調査を通して法律専門用語を翻訳する際、正確な「訳」を実現するための慎重な調査と注意を喚起したい。

8.

テーマ：“NP 的 VP” フレーズをどう日本語に訳せばよいか

発表者：佐藤富士雄（中央大学名誉教授）

要旨：

中国語の書面語で多用されるようになっている「名詞(句) “的” 動詞(句)」フレーズ(例：“孩子们的成长并不是按照大人的设计在进行,” | “马克思主义政治哲学体系的构建, 是中国特色学术话语体系的强有力支撑。”)が、全体として名詞的性質を示すこと、フレーズ中に用いられる動詞の大部分が単音節動詞に比して動詞的性質が弱いとされる 2 音節動詞であり、特にこのフレーズ中に用いられた場合に、本来の動詞的性質の一部または大部分を失ってかなり強い名詞的性質を示すことは、2 音節動詞の名詞化や、動詞の下位分類としての“名动词”「動名詞」の認定に慎重な学者によっても認められた、言語学的「定説」となっていることは周知の通りである。

さて、こうした状況を踏まえて、我々はこのフレーズを含む文に対しどのような日本語訳を与えたらよいのだろうか。文法の授業を担当される会員はもとより、中級、上級の講読や読解の授業を担当される会員も、日頃から頭を悩ませておいでのことだろう。

本発表では、中国を代表する新聞の紙面から集めた具体的用例を取り上げ、内部構造を確認しながら、それに対応する日本語訳の例を示して、会員諸氏の参考に供したいと考えている。